

Organo de HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

Heroldo de HEL

N-ro 148

Augusto 2013

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

- 表紙、Enhavo/目次 P. 1
- 2013初夏合宿についての反省/阿部映子 P. 2
- Klaso "Interparolado, k.a." / 「会話その他」クラス/HOS^IDA A. P. 4
- Pri la seminario de HEL/GOTOO Sumiko
- 2013初夏合宿報告/初級クラス講師より/川合由香/KAWAI Yuka P. 5
- エルプラまつり の予定/横山裕之
- Ni alig^u al la 77-a Hokkajda Kongreso de Esperanto! / P. 6
北海道エスペラント大会へのお誘い/HEL事務局/KAWAI Yuka
- Romano "La Pordego de Adolesko~Defio" verkita de P. 8
ITUKI Hiroyuki(icuki hirojuki)/ 五木寛之「青春の門」
第七部「挑戦編」書評/ Betululo 樺山裕介
- Sinprezento/自己紹介: Micuaki OOTOMO/大友満昭 P.11
- 私の読んだ本/Mia legita libro(3) P.12
"Kredu min sinjorino!" / 白濱晴久 Haruhisa S^irahama
- Danke ricevitaj ー受領郵便物ー (星田淳 扱い) P.14
- 8.29アピール「韓国併合条約公布日に寄せて」/札幌郷土を掘る会 P.16
- Protokolo de la 4-a kunsido de HEL/KASJARO 2013/ P.17
2013年度第4回北海道エスペラント連盟委員会議事録
- 編集後記/Redaktanto parolas ... P.18

2013年初夏合宿についての反省

北海道エスペラント連盟研修委員 阿部映子

昨年は日本大会準備のため、一昨年は札幌市内での全国研修セミナー開催のために、2年間続けて北海道エスペラント連盟主催の合宿研修を実施していませんでした。今年こそはやらなくてはと、委員会で計画をたてましたが、計画どおりにはいきませんでした。

会場は、数クラスの研修ができる部屋があり、できれば宿泊も可能で、ある程度交通が便利、そしてあまり使用料がかからない場所ということで、以前も使わせていただいた「柴田循環器医院研修所」をまたお借りしました。

一般市民向けの「入門」と「初級1」「初級2」「会話・歌・その他」の4クラスを予定しましたが、残念なことに参加者が少なく「初級」と「会話その他」の2クラスになりました。講師4人以外には、「初級」には7人参加（うち3人は29日のみ、2人は30日のみ参加なので、29日5人、30日4人）、「会話その他」には4人参加（うち2人は29日のみ参加なので、29日4人、30日2人）。

一般の人の参加がなかったのは、新聞社に事務局から合宿案内掲載の依頼を出したが掲載されなかったためで、講師担当予定の私としては、残念でしたが、初めての講師予定だったので内心ホッとして、安心して裏方にまわりました。講師の横山さんも29日のみ参加となったので、2クラスで結果的に良かったのかもしれませんが。

お向かいに住む女性が、外の張り紙を見て何をやっているのか興味をもって30分ほどいらしたので、教材資料を渡して簡単な説明をしましたが、勉強までにはいきませんでした。

「初級」は、川合さんが講師となって横山さんが補佐する形で「momato」の記事の中からウイーンの猫カフェなど面白い話や、横浜の沖田さんが発信している最近の日本事情などを題材に行われました。皆、興味を持って「面白かった」「記事に出て来る単語でわかりにくいものを、あらかじめ拾いだして注をつけてくれたのが良かった」と好評でした。

「会話その他」は、星田さんが講師となって、会話というよりも、ザメンホフの「Fundamenta Krestomatio de la Lingvo Esperanto」の中程を教材として行われました。参加者からは、「以前にも勉強会で読んだことがあるが、ただエスペラントを読むのではなくザメンホフの意図を考えるともっと深いものがあるのがわかりました。」「ザメンホフが世にエスペラントを広めるためにこのような作品もエ

スペラントにできると翻訳したとだけ認識していたが、最初から読んでいくとレンガを積むように言葉のしくみ等をわからせてくれるようになっている。」と、好評でした。

両日とも、最後の時間は2クラス合同で、星田さんが歌を指導。

◎ 今回の反省

やはり一般参加者がいなかったのが残念。新聞に小さくても載れば効果があるのですが難しいですね。過去の合宿に参加してくれた人やエルプラまつり等で連絡先を記入してくれた人には事務局から連絡してくれたのですが、転居して宛先不明となっていたり全く反応なしだったり。でも、SES会員のミユラーさん親子と大友さんが参加してくれて、大友さんはその場でHELの購読会員になってくれました。ミユラーさん親子も、後日会費を振込んで一般会員となってくれました。また、以前HEL会員だった旭川の天方さんも30日にのみ参加してくれました。

次に、以前にも会場がわかりにくいという指摘があつて、機関誌に地図を載せましたが、西野付近を知らない人には、やはりわかりにくかったようです。またバス停は西野2条6丁目からしか記載しませんでした。小樽へ向かう国道にもバス停があり、そちらも載せる必要がありました。地下鉄宮の沢駅から徒歩10分ですが、曲がり角のローソンまでは上り坂で、ローソンからも結構距離があるので、初めての道を探しながら歩くと10分以上かかったかもしれません。

教材は、それぞれの講師が作成したが、事前の問合せ・申込が全くなく、参加人数は当日まで不明でした。せめてHEL会員だけでも、事前連絡してもらえば良かったかもしれません。「もしかしたら用事ができて参加できなくなるかもしれないが2日目だけは参加できるかもしれません」「宿泊はしませんが、両日とも参加します」等の連絡があれば、ある程度参加人数の予想がついたと思います。

歌は好評だったが、いつも通り「星田さん頼み」でした。星田さん以外にもう一人か二人歌を指導できる人がいてくれたらなあと思います。

★それでも、2年間実施していなかったのだから、やっと新スタート。しかも、HEL会員が3名増えたのは嬉しいことです。

今回できなかつた一般市民向けの「入門」は、エルプラまつりの短時間講習に生かしたいと思います。★

Klaso "Interparolado, k. a."
「会話その他」クラス

HOS^IDA Acus^i

Esperantoを使う場面として外国の仲間と話す場面、世界大会などで
会った人と話す場合を想定して、こんな場合はどうか、を考えてみ
ました。

会話はキャッチボールのようなもの。投げた球は返ってこないと続か
ない。会話は質問、答え(説明)の繰り返しで続きます。質問の形には
Ĉu ———? の形 (Jes か Ne で答えてもらう) と
Ki- ———? の形 (疑問詞で尋ね 説明してもらう) の
二通りがあります。疑問詞は 相関詞表に出ていますが なかなか便利に
できていて、これがあるからEsperantoは使いやすい。
大いに活用したいものです。

教材は ザメンホフの Fundamento de Esperanto の中にある
Ekzercaro (\$1 — \$42) のうち La feino (\$11, 13, 15, 17, 19, 21, 23)
を使用しました (Fundamenta Krestomatio ではありません)。

一緒に読みながら理解を確かめて行きます。以前学習会で読んだことの
ある方もありましたが文の理解が十分でなかったところがあちこちに
ありました。特に代名詞の使い方。ザメンホフは実にうまく使っています。

「読んで、理解を確かめる」も、なるべくEsperantoで — と努力
しましたが達成率は60%ぐらいでしょうか。今後この率が上がる方法を
考えることになりそうです。

Pri la seminario de HEL

GOTOO Sumiko

Post 2 jaroj (de la lasta fojo) mi partoprenis en la seminario,
kiu okazis la 29-an kaj 30-an de la lasta junio.

Kvankam mi ĉeestis nur posttagmeze en la 29-a tago, mi estis tre
kontenta. Mian klason gvidis s-ro Hos^ida, kiu preparis sufic^e da
materialoj por ni, klasanoj. Unue li disdonis al ni paperojn, sur
kiuj estas skribitaj multaj demandoj kaj respondoj, kiuj estas
utilaj, se oni partoprenos en iu UK. Ni tradukis ilin el la japana
en Esperanton. Tre interesis min diversaj tradukoj de ni, lernantoj.

Poste ni voc^legis "La feino"-n, de tempo al tempo starante kaj
cerbumante por demandoj de la gvidanto.

Mi rimarkis, ke mi tra legis, ne profunde komprenante, sed nur
surface legis. Tiel la seminario multe utilis al mi por altigi mian
esperantan nivelon dum tiel mallonga tempo. Koran Dankon al la
gvidanto kaj aliaj, kiuj laboris por la seminario!

川合由香

初級クラスには、1日だけの参加の方を含め、9名の出席を得ました。用意した教材は、雑誌「Monato」の記事と、国内のエスペランチストが多数参加しているメーリングリスト「ERAJ」上に毎週発表される「Lasta Novajxo de Japanio」（横浜市の沖田和海氏ほかのご尽力によります）の記事です。この選択は多分に講師の趣味（＝時事問題の読み書きが好き）の反映ですが、参加された方々はふだん時事ものはほとんど読んでおられなかったようで、「新鮮だ」と好評でした。

「Monato」の記事は「ウィーンに猫カフェ1号店が開業」というニュースでした。「Lasta Novajxo de Japanio」からの引用は「宮沢賢治の成績表発見」「歩きスマホでホームから転落」「医薬品のネット販売が解禁」など6本。1) 初級者が間違えやすい文法事項を含んでいるもの 2) 内容自体が参加者の興味を引きそうなもの の2点を意識して選びました。

合宿の直前、これらの教材を横山裕之さんに見ていただいたところ、「このままでは難しい。“中級”レベルだと思う。解説をつけては」とのご意見をちょうだいしました。それで、単語すべてを構成要素（語根、接頭辞、接尾辞など）に分解してコンマ（、）をふり、難解またはまれにしか使われない（であろう）単語には和訳をつけました。これは成功だったようです。

「読み解く」という講習は、下手をすると講師ばかりがしゃべっていることになりかねないので、こまめに立ち止まっては参加者に質問を出しました。単語の意味さえわかれば問題なく訳せる、という方がほとんどでした。そのおかげで安心して講習を進めることができました。

「Lasta Novajxo de Japanio」作成に関わっておられる某先輩曰く、「文学作品を読むことは大切です。でも、市民どうしの国際交流のためには、日常用語を多く含む時事ものの読解がより重要です。文学はその次の段階になるものと思います」。もし、今回の合宿が、学習方法を少し見直す機会になってくれたら、講師としてはうれしいかぎりです。

参加された皆様、ありがとうございました。

「エルプラまつり2013」のご案内（横山）

今年も例年に続き、エルプラザで、平成25年9月7日（土）10:00～16:00にて、参加団体の活動発表および情報発信のイベントである「エルプラまつり2013」を開催され、毎年参加しているHELも参加します。今年は、一般の人に広くエスペントを知ってもらうために、エスペラントのミニ講座の開催を考えています。その他、毎年行っている色々な展示物の出展もします。お気軽にご参加いただくとうれしく思います。手の空いている方は、一般の人へのエスペラントの宣伝のために、ぜひご参加してご協力をお願いいたします。

今年も、エスペラントのミニ講座を20分くらいで何回かやることにしようと考えていますので、みなさんよろしくお願ひします。

la 77-a Hokkajda Kongreso de Esperanto!

第 77 回北海道エスペラント大会

へのお誘い

過去 2 回の北海道大会は、第 99 回日本エスペラント大会 (札幌) の準備と総括のための変則的な開催でした (1 日のみ、「お楽しみ」の行事なし)。おかげさまで日本大会も無事終了しました。

今年はやります! 「来て、見て、聴いて楽しい北海道大会」。道外から aktivulo の講師をお招きします。多くの方のご参加をお待ちします。お子さん・お孫さんの同伴 (参加費無料) を歓迎します。

【第 77 回北海道エスペラント大会 プログラム】

2013 年 10 月 19 日 (土) 13:00~16:00 北海道エスペラント連盟 総会 320 号室

終了後 バンケード (札幌駅周辺を予定)

10 月 20 日 (日) 10:00~11:30 公開番組 第 1 部 (楽器の演奏) 110 号室

13:00~16:00 公開番組 第 2 部 (講演) 310 号室

終了後 第 1 回連盟委員会

会場: かでる 2.7 (札幌市中央区北 2 条西 7 丁目) ※部屋は上記のとおり

【参加費】

3000 円 (不在参加 2000 円: 記念品つき)

【講師紹介】

堀泰雄 (ほり やすお) さん: 1941 年生まれ。群馬県前橋市在住。(一財) 日本エスペラント協会理事、関東エスペラント連盟事務局長。元高校教員 (英語)。

『Raportoj el Japanio』シリーズをはじめご著書多数。

【20日午前の公演】「一緒に演奏してみよう世界の珍しい楽器」

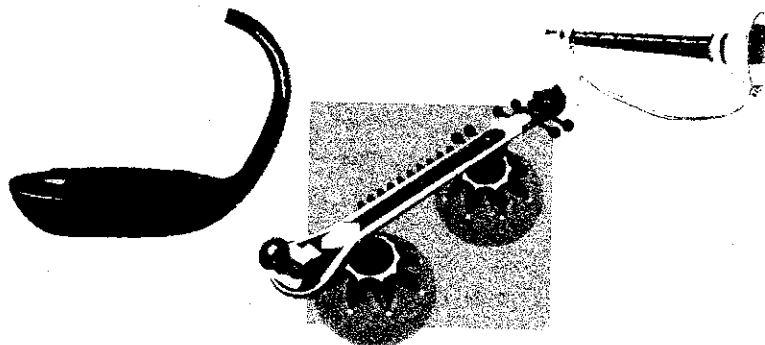
講師の堀さんは、エスペラントを使って世界中の珍しい楽器(主に笛類)を集め、それを日本で、世界で、演奏して楽しませています。堀さんと一緒にあなたもその楽器を演奏してみませんか。「同じものが世界にもあるの?」「え!鼻で吹くの?」など、びっくりの連続です。特に子供さんの参加が大歓迎です。世界の見方が変わりますよ。

【20日午後の講演】「エスペラントで大震災を世界に伝える」

講師の堀さんは、東日本大震災の直後から、震災の惨状を、日本人の生きざまを、原発事故の重大性を、世界に、エスペラントのメーリングリストを使って発信してきました。それは、多くの国の言葉に翻訳され、エスペラント以外の世界にも伝えられています。報告は今、合計700ページの2冊のエスペラントの本「Raportoj el Japanio」になっています。

堀さんはまた、福島県いわき市から青森県八戸市まで、主な被災地をすべて訪問し、その移り変わりを見てきました。その報告を、「世界の旅人堀さんの気ままエッセー」(日本語)として出版し、人々に「震災を忘れないで」と訴えかけています。10月に出版予定の「気ままエッセー3」が今回の大会記念品になります。堀さんは詩も作り、友人の作曲家の手で歌にもなっていて、そのいくつかを歌う予定です。

堀さんは、この3年間、フランスの各地を回って、大震災を語り続けてきました。そんなお話も聞けるでしょう。「大震災といつまでもかかわり続けることが私の生涯の課題」と堀さんは言います。そんな熱い思いをあなたも共有しませんか。



Romano "La Pordego de Adolesko ~Defio"
verkita de ITUKI Hiroyuki (icuki hirojuki)
五木寛之「青春の門 第七部 挑戦篇」書評

Retululo 樺山裕介

En 1960-61 juna S^hinsuke venis Hokajdon. Li konatig^his kun diversaj homoj kaj eksciis Esperanton. Dum liaj aventuroj kreskis lia deziro iri ekster Japanio.

10代のころ。「青春の門」と、荒い字体が背表紙に書かれた、黄緑色のハードカバー全巻が、高校の図書室や、市立の図書館に並んでいた。たくさんの人に読まれて、ぼろぼろになっていた。思春期の読者にとって、うらやましくもあり心苦しくもある場面がところどころにあることが大きかった。筑豊の炭坑地帯で始まる若者の成長物語である。主人公が進学で東京へ出てから、劇団に付いて函館に行ったところまで読んだ。それから東京へ戻って、幼なじみの歌手のマネージャーをしていたらしいが、そこまでは読んでいない。私はガキだったので、筋は断片的にしか覚えていない程度だ。長い小説のいちばんはじめに出て来た、香春岳という、けったいな形をした山を、実際に列車の窓から見たときには感動したなあ。たしか、筑豊を出て行くときには、義母の遺骨をかじりながら、ナナハンをぶっとばしていたなあ。すごいなあ。と書いても、とても説明にはなっていないが、そういう大河小説である。

以下は、ネタバレですので、話の結末を、読む前に知りたくない方は、読まないでください。

ときは、1960年(昭和35年)の暮れから、翌年の春にかけての物語である。主人公、伊吹信介25才。「<革命が明日にもくる><そのためなら命を捨ててもいい>そう本気で考えている青年たちが、どこの大学にも数多くいたのである。」という時代だったらしい。「水原弘がうたう<黒い花びら>の歌声が風にちぎれながら流れていた。」どのような曲か、当時生きていないので見当もつかない。あとで、動画検索してみよう。

「江差(えさし)は風の街である。」文庫本にして、かなり厚い688ページ分のこの本は、こう始まる。ここから、おそろしく荒涼とした冬の檜山地方の天候の描写が続く。

688ページのうち、エスペラント語に言及しているのは30ページだ。かなり多いページ数だと言ってよいだろう。286ページ読んで<和エス辞典>、<エロシエンコ>ということばがあらわれ、次の287ページで<エスペラント語>ということばが、はじめて出て来る。そこからがエスペラント語の説明だ。

九州男児くんが、なぜ、はるばる冬の江差に来たか。江差出身の老人の遺骨を持って来て、わけありで江差に行けない老人の娘に頼まれて、かわりに遺言をはたしてやるために、天然の防波堤のような細長い小島・かもめ島で、散骨をするために来たのである。この老人がエスペランティストだったという設定なのだ。ジョンが貸してくれた岩波新書「ザメンホフ」(伊東三郎著)を主人公が読みふける場面で、一章の半分を費やしている。

主人公を追って来た全学連の地下組織「全文工」の青年、江差追分の師匠

にして漁師の男、弟子の美少女、心を病んでいる水商売の母親、世界を放浪しているオーストラリア人の青年、居候先の禅寺の住職がからみ、舞台が函館に移ってからは、新聞記者くずれの裏稼業の男、その仲間のバーのマスター、レポ船の元締め、右翼の大物、客引きを脅すこわもての公安調査官、困われて流れて来たインテリ娼婦が、からんでくる。

分岐点を作ってくれたのは、快活な豪州青年ジョンである。もともと、良家の生まれで、何も考えずに生きていたジョンは、交際していた女性がアボリジニ問題に入れこんだあげく不審な死をとげたことから、今までの生活を捨て、世界中を身ひとつで歩きはじめる。ヘルシンキで英国情報部員の仕事も、裏の世界を知るためにやったことがある（これが意外にアルパイト的な穏やかな世界であったところがミソ。冷戦なんてたがいの軍産共同体のための八百長だ。余談。）。江差にいるのは日本の北前船の論文を書くためである。

このジョンのせりふである。「イブキさんは、いま自分は迷っている、と言いましたよね。」「それでは一つ、私が真面目なアドバイスをしましょう。イブキさんは、一度、日本を出てみることです。それも二十代のうちに」

イブキには特に外国に行く理由はないため、初めは、その忠告をはねつける。しかし、この夜をきっかけに、国外に出るという思いが膨らんで行く。

ここに、エスペラント語への思いを重ねてみよう。ジョンは、ポーランドで、エスペラント語ラジオ放送のスタッフだった女子大生と短い恋をしたことがあったそう。そこで、エスペラント語をかじったそう。東欧諸国を旅するならエスペラント語を知っていたほうがいと彼女から吹き込まれる。そのことをジョンがイブキに話す事で、イブキにはエスペラント語の有効範囲がインプットされる。

イブキは夢を見る。ビアリストック市の夢だ。夢のことだから、何でもありだ。そこで、エロシェンコと会う。若いころの「老人」の消息を尋ねる。スペインへ行ったことだけ答えを得る。官憲に尋問される。パスポートがない。この国内異人め。悪夢に変わる。これはユダヤ人ザメンホフの嘆きだ。国内異人＝イナロードツイ＝権利のない連中。

イブキは志をたかぶらせ、その志を固めていく。ソ連へ渡り、シベリアを横断し、ポーランドへ行こう。仲間をだましてでも行こう。なぜポーランドか。ザメンホフの故郷だからか。執筆当時、東欧の民主化の熱気がすごかったことも、作者に影響したかもしれない。

とにかく、最後は、それぞれ思惑のちがう男女5人でソ連へ密航する話になるのだ。若者が未知の世界に足を踏み出すところで、物語はいったん、終わる。

4月はじめに、この本を携えて、江差に2泊して、旅をしてきた。風は強かったが、この小説のように、街は暗くない。春を告げる黄色い福寿草が芽吹き、むしろ明るかった。江差に来るのは3回目か4回目である。JR江差線の「木古内～江差」間が廃止になる事が決まったので、いまのうちに乗っておく必要もあった。夏に乗ったときは、峠越えでは、列車に、成長したオオイタドリがバシバシ当たって、窓を開けると顔に当たるくらいの大自然だったが、この残雪の季節では沢の奥まで見晴らしがいい。全部の駅、見届けたぞ。廃止されるなんてなあ。

かもめ島で、深緑に染まった岩礁に身をもたせて、美しい日没を、酒を

呑みながら、伊吹信介のように海の向こうに思いを馳せながら、眺めたことは、とても良かった、が、ホッカイロで間に合わないくらい体が冷えた。「江差追分の師匠にして漁師」の人と会った。追分の師匠と話をどうぞということになり、住んでいる場所が小説と同じだったので、尋ねてみたら、この人がモデルだった。小説のための取材を受けたらしい。そのあと五木寛之氏からの音沙汰がないことを寂しがっていた。

主人公たちが居候していた寺も確認して来た。坂を上ったかなり高い場所にある。

この追分。信濃の国小県（ちいさがた）地方・望月町でのエスペラント日本大会に行ったときに、追分は信濃の追分だということを知った。さらに、そのルーツはモンゴルらしい。たしかに、モンゴルに追分そっくりの歌があり、それを検証した人もいる。モンゴルより先（ハンガリー？）もあるらしいが未確認である。しかし、江差追分の調べは波乗りなのだ。大陸の叫びがどうやって荒海の叫びになったか、これはナショナルジオグラフィックが特集する価値があるほどの世界的歴史ミステリーロマンではないか。小説のなかで追分は、恋人たちの別れの場面で実にうまく使われて出て来る。

「江差の春は江戸にもない」と言われた北前船の町・江差。ニシンの群来（くき）がなくなった今、衰えさびれたのかといえ、そうでもない。姥神大神宮渡御祭のフィルムを見た。若い男女や子どもたちが、はちきれている。楽しげに顔を見合わせながら思い切り太鼓を叩く女の子たち、男の子たち。太鼓ができれば、次は笛を吹かせてもらえる。ヤンキー兄ちゃんたちが山車かつぎで見せる無尽蔵のスタミナ。そのような年月はすでに経て来た貫禄あるおじさんたち。いいなあ。今度、生で見に行きます。

あと、海岸近くの目抜き通りを全部、江戸時代風に変えたのは、あっぱれな税金の使い方である。古い建築をはさんで、銀行も、パン屋も、板金工場も、理容店も、自動車販売店も、自転車屋も、すべてその通りの店は江戸時代風に建て替えられた。理容店は「髪結い」の看板を出していた。風情があってよい。こういうこと、やればできるのですね。

小説のなかでは、まるで西部劇に出てくる砂埃にまみれた荒んだ集落のような書かれ方をされているが、それは冬だけの話で、春になればおだやかで、おいしいものもいろいろあり、復元された戊辰戦争での軍艦・開陽丸や網元屋敷など、見所もそろっている明るい町である。

このころのような海外渡航が困難だった時代に、エスペラント語が若者たちの心を惹いた。ところが、海外渡航が簡単にできるようになると、エスペラント語界は逆に少子高齢化するようになった。この問題は、別に論じたい。

この本は「親鸞」などと比べ、売れた本ではない。今の世相に合わない本である事は否めない。

しかし、「青春の門」シリーズの底流には「さすらい」がある。

さすらいに血がさわぐ人間でありつづけたい。

インドなど世界を放浪するとき、安宿で、バックパッカーたちが、たがい、英語ではなくエスペラント語で話すような世が来ないものか。

風の吹き抜けるかもめ島で、日課にしているエスペラント語の音読をした。周りには誰もいなかった。

講談社文庫 950円

6月の初夏合宿に初めて参加された大友さんから自己紹介文が寄せられました。正直なところ これだけ書ける人が隠れていたのか、と驚きましたが、読んでみると高校2年生で独習開始、千葉県での講習会や焼津合宿にも参加されていたとか。納得。これからは我々の集まりも *babilado* の場として活用してください。

----- La Red.

Saluton! En la frusomera kunlog^oado cⁱ jara organizita de HEL mi alig^{is} al HEL kiel membro-abonanto.

Do mi provas iom prezenti min. Mia nomo estas Micuaki OOTOMO. Mi log^{as} en la kvartalo Sⁱroisⁱ de la urbego Sapporo c^{ir}kau^o 17 jarojn - En cⁱ tiu log^ejo mi nun vivas 7 jarojn - kaj jam ne laboras por la mang^oado.

Antau^o la emeritig^o mi tiel dikig^{is} 10kg-n super la normala pezo, ke mi provis kuri por sano sed tio damag^{is} min sur la genuoj. Tial mi devas komenci per promenado. Dank' al tio post 5 jaroj mi nun povas kuri en maratona festivalo, kvankam mi lante kuras kiel testudo. - Mi devus peti de testudo pardonon, c^{ar} oni diras, ke testudo ne tiel malrapide kuras. Do mi estus heliko, c^u ne? Mi iras alian vojon. Mi revenu! -

Kial mi komencas kuradon? Tio estas por ke mi sane vivu longatempe. Tio tamen estas nur por la korpo.

C^u estas necese, ke mi devas fari ion por la kadukig^{anta} cerbo? Sed mi havas nenion bonan por la cerbo, ekzemple desegni bildojn, verki romanojn au^o studi diversaj^ojn.

Jen venis al mia kapo iu ekbrilo. Mi ja scias Esperanton, kvankam iom. Do, mi provu re-lerni gⁱⁿ!

Por la cerbo estas utile ne nur pensi sed ankau^o movi la bus^{on}, mi pensis.

Tial mi vizitas la kunvenojn organizitajn de SES. Sed estas tre mal-facile tuj elbusⁱ esperantajn vortojn. Bedau^o rinde mi emas tuj krokodili.

Mia unua renkonto kun Esperanto estis en mia dualernojarlo de supera mezlernejo en la urbo Sendai. En iu ripoztempo mia samklasano al-parolis min, c^u mi scias Espernaton.

"Kompreneble mi scias!", mi tuj respondis, kvankam mi ne sciis gⁱⁿ.

Por la realig^o de la dirac^o, senprokraste mi serc^{is} librojn pri tia Esperantaj^o en iu librovendejo revenvoje de la hejmo, kiu situas en la najbara urbo de Sendai. Kaj mi renkontis libron titol-itan de "ESPERANTO EN KVAR SEMAJOJ" verkita de OOSIMA Yos^{io}. Mi tuj ac^{etis} la libron kaj legis du, tri pag^ojn sed ne ellegis la tuton, c^{ar} mi devis g^{ene}ge lerni anglan lingvon, ekz. g^{ene} komplikitan tekston de internacia pakto kaj aliaj. Kaj mi sentis, ke mi provu lerni Esperanton estonte, se gⁱ estas facile el-lernebla kiel la libro diras, ke la gramatiko estas regula sen- escepto kaj simpla.

Post la finlernado en la supera mezlernejo mi trovis laboron en iu urbeto en gubernio Ĉiba, kie logiis neniun esperantiston kaj mi sola komencis lerni Esperanton per tiu iam acĉetita libro, lante kiel heliko.

De tempo al tempo mi kontaktis JEI-n kaj ricevis informojn pri kluboj aŭ Esperantistoj logiitaj en la gubernio Ĉiba. Kaj mi sciis la kurson okazigita en la urbo Ĉiba. Do mi partoprenis en la kurso gvidita de s-ro KITAHARA Jiro, iama revizoro de JEI kaj kelkajn jarojn poste forpasinta, se mi ne eraras, frekventante 4 horojn por iro-reiro en ĉiu semajno. Sed mia kapablo por Esperanto kreskis malfacile. Iam mi partoprenis en la kunlogado en la urbo Jaizu tri, kvar fojojn. Tie fluis glate la vortoj, paroloj, aŭ kantoj Esperantaj. Tion gvidis junaj estontaj estraranoj de JEI kaj aliaj. Kaj organizis klubon kun mi junaj 5 anoj logiitaj en la gubernio Ĉiba, kaj ni kunvenis unufojon en ĉiu semajno en la urbo Funabasĉi, kvankam ni ne registris gin en JEI. Sed mi ne povis daŭrigi la vizitojn al la kunveno pro mia maldiligenteco kaj pro la fora distanco.

Kaj iom post iom mi lasis Esperantajojn kusĉi en la librobretaro kun polvo.

Kaj por komence dirita kialo mi relernas Esperanton, precipe babilu per Esperanto.

私の読んだ本 Mia legita libro (3)
"Kredu min sinjorino!"

白濱晴久 Haruhisa Sĉirahama

"Kredu min sinjorino!" de Cezaro Rossetti, とにかく面白かったと言う記憶が強い。だから面白かった本は何かと聞かれると、すぐにこれを挙げてしまう。ところが今この本の何が面白かったのだろうかと思ひ直して見ると良くわからないのだから、ひどくおかしい。輪読で読んだ"Viktimoj"などは筋の或る一つの話として記憶に残っているが、"Kredu min —"は一筋の話ではなくて、訪問販売やデパートでの実演販売で人を半ば騙して売りつける商人の日記みたいなものだ。別に筋等がないから面白かったという感じだけが残っているらしい。それにもう一つ、読んだ時期にもよるのかもしれない。

私は2000年3月11日—6月10日にあった初心者講習会で初めてエスペラントを宮岸忠孝氏に習った。テキストは"La Teksto Unua" (La Movado 編集部篇)の薄いパンフレットと何かの資料のコピーを使って授業があった。この講習でこれはわかり易い言葉だと言う印象を受け勉強を続ける

ことになったが、受講生が10人いたのにその後会に残って勉強を続けたのは一番年寄りの二人だけ、磯部俊朗氏と私だけだったのは、この言語の将来を見た様な気がした。しかし、その後で“Karlo”をソファにひっくり返って楽しく読めたので、これは趣味でするには良い言葉だと言う気になった。何しろ英語は長年使っているが、自分の専門の化学論文は良いとして新聞などを読むには抵抗があるし、小説となると抵抗は更に大きく今迄に一つしか読んだ事がない。2001年1月に“Kredu min”に出会い一人で読み始めたら、人の心理を考えてうまく近ずき売り込んだり、トリックを使い見物人を騙して売りつけたり、今度は自分が騙されて幽霊の出る部屋に泊まったり、次の頁はどうなるのかと期待させるものがある275頁を9月に読み終わっている。勿論どうしてもわからない所は3-40頁置きにまとめて星田さんにメールで質問し、懇切丁寧に教えて頂いた結果であるが、一年も勉強しないでちゃんとした本が読めると言う事がこの言語を見直すことになったし読めた事が嬉しかったようだ。

小説の主人公は色々な物を売ったが無水鍋売りが一番長い。人を集めて実演をしていると、適当なところで「桜」が出て来て「こりゃ一良い鍋だ」とか言って一つ買う。もう一人がそれに続けば後は見物人が本当に買い出す。「桜」も商売で勿論手当を払う。それもタイミングが良くないとうまく行かないので中々研究している。家庭訪問ではドアから離れていかにも帰りそうにしながら話し出すようにしないと、すぐにドアを閉められてしまうそうだ。みかんに穴を開けてジュースを絞り出す穴の開いた鉄パイプを実演で売りつけた時には、一度絞ったみかんを見物人から見えない様に水に浸して又絞るので、如何にも効率よくジュースが絞れる様に見える。或る時は一人の夫人が12本買ったので「贈り物ですか？」と聞いた

「いや、うちにはオレンジが1ダースあるから」と答えた。衆知の様にスイスには公用語が四つある。イギリスで二人のスイス人が会った時、同国人同士で通じる「スイス語」がなくて気まづくなった。しかし二人ともエスペラントを理解する事がわかり故国の話で盛り上がったという場面

がある。でもこんな事が本当にあるのだろうか。ロマンシュ語とドイツ語はかなり違うから地域からあまり出ない人達間ではあり得るのかもしれない。もしそうなら彼等にとってエスペラントはどちらの言葉よりも格段に覚え易いだろうから、同国人の間の共通語になり得たかもしれない。私は他では見た事がない種類の本で中々楽しめた。

Komentas Hosida

この本のおもしろさはセリフのやりとりです。日本語にも通ずるような「くちばしの黄色い奴」、「彼女、蒸発しちゃったよ」、「あばよ、気ままな風に吹き寄せられたらまた会おうぜ」とでも言えそうな会話が出てきて「男はっらいよ」の寅さんを思い出す。各章のタイトルが「ことわざ」など気のきいた言葉で飾られている。VIRINA RIDETO PLI KAPTAS OL RETO というタイトルの章の最後では

A (男) : "Do?" B (女) : "Do?" A : "Do!" これだけの会話で
B KAPTAS A-n. が完了するなど、みごとなものです。

*Novaj^oj Tamtamas: Internacia Gazeto de Jokohama Esperanto-Rondo (JER, Hama-Rondo); N-ro 283/ junio 2013, A4X4頁、全文E. TIEL OKAZIS 欄に札幌の姉妹都市ミュンヘンのE. 会会員であるGes-roj Jos^ie k, Dieter の写真入り記事。二人は1965年東京での世界大会で初めて会い、その後ハンガリーでもまた会って --- という経過報告も。BELETRO 欄に OOTA Hiroja

(太田博也) 原作、KOYAMA Takesi 訳の「ドン氏の行列」

*La Tamtamo: 第455号, 2013年6月号, A4X6頁、横浜エスペラント会/JER 発行、日本文。読書会報告は“Nesend-itaj Leteroj el Japanio” de Spomenka S^timcc, 25年前に原発に疑問を持っていた。翻訳発表に谷川弘「関寛斎のこと」(司馬遼太郎)。

*La Informilo de NEC/センター通信 第270号 2013年6月5日 名古屋エスペラントセンター発行、B5 X18頁のうちE. (エスペラント) 文3頁半は Mia voĵag^oen Nepalo/YAMAGUTI Sin^iti, ほかは5月の東海大会報告、センター総会報告、磯部晶策三を囲む会、など。

*NOVA VOJO: N-ro 496 junio 2013, EPA(エスペラント普及会) A5 X34 頁の内E. 文6頁。第23回国際エスペラント合宿(4月、韓国)参加記。ピョンヤン政権の脅威が報じられ参加予定者

の1/3が参加を中止したが日本から7人参加し歓迎された。Vivo de Oomoto-Fondintoj(出口なお・出口王仁三郎の生涯)連載中。EPAの90年—ちょっと小路へ(3)は Verda Mondo の編集発行人の栗田茂氏と、彼についてのオーストラリアの Marumi Smith さんからの問い合わせ。

*Eskalo 2013年6月26日発行 149号(2013年第2号)、川崎E. 会、B5 X6 頁のうちE. 文1頁強は EVAKUI(避難)—対馬丸の悲劇/KITAGAWA Kazuo は前大戦中の1944年8月米潜水艦に攻撃され沖縄からの疎開学童 700人以上を含む1600人が海に沈んだ事件。7月7日川崎E. 会も参加するインターナショナル・フェスティバル in かわさきのチラシなど同封。

*NOVA VOJO: N-ro 497 julio 2013, EPA(エスペラント普及会), A5 X34 頁の内E. 文7頁。EPA 創立90周年記念行事関係記事が大部分。記念講話は「人生をかけて、不可能を可能に—ポーランド議会・学校教育でのエスペラント採用に向けて」/三好鋭郎 EPA理事、Speciala prelego はポーランドの Roman Dobrzynski.

*La Movado; 関西エスペラント連盟 (KLEG)発行, N-ro 749 julio 2013, B5X16 頁のうちE. 文2頁強。巻頭記事は「第87回九州エスペラント大会(5月、長崎)/深堀義文」

Vortaro por Lernantoj/Lau-lum は筆者の没後も生前受け取った原稿で連載が続きこの号で130回。Salonoの「エスペラントの町訪問記／西千寿子」は Esperanto-urbo と名乗るドイツの小さな町 Herzberg am Harz 訪問記。La Movado に28年数学パズルを連載していたマルチタレント「辰巳博さん（4月1日急逝）を偲ぶ」、KLEGの2012年度活動報告、2013年度活動方針など。

*La Vulkano; N-ro 170 Julio 2013; LA ORGANO DE HUKUOKA ESPERANTO-SOCIETO. B5 X 8頁のうちE.文3頁。5月の九州E.大会、それに参加した Ges-roj Kleemann, 韓国の女子学生（2ヵ月前学習開始、開会式であいさつ!）Helaさん、4月韓国で開かれた第23回国際E.合宿の記事など。多くのカラー写真で美しい機関誌。

*R0mazi Kenky0 2013. 7. 1, 第17号（公財）日本のローマ字社教育部（NRKK）発行。A4X 10頁のうちローマ字 計5頁は "Aoyama" no Yurairi/, NRKK ga umarekawatta "NRS Ky0iku-bu" to site, [Hikiawase], Hensy0 Atogaki、と Uta o wasureta kanariya(8)/It0 Seiti.最後の筆者は昔 HEL会員の伊藤静致（北見）。松本清張『小説東京帝国大学』を読む／Kimura Itir0 が連載第3回。時代は明治の末、大逆事件でちあげの時代。ちょうどローマ字運動高揚の時期

と一致している。

*Ponteto/ (Bulteno de Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo: 関東エスペラント連盟)/Julio 2013 N-ro 259, B5 X20頁のうちE文5頁は LA KOLIZIO DE CIVILIZACIOJ EN NIA HEJMO/SASAKI Teruhiro と Leteroj de Tigro(11)Lingva malegaleco/Bill Mak.被災を語ったフランス旅行（2013. 6. 4-6. 25）／堀泰雄 は筆者が東日本大震災、原発被災について語った6月の講演旅行の報告。

*La Movado; (KLEG) 発行, N-ro 750 au-gusto 2013, B5X20 頁のうちE.文3頁。巻頭記事は5月和歌山で開かれた第61回関西E.大会について。対訳「初秋の浅間／堀辰雄: La Monto Asama en frua au-tuno/trad. OKI Keimei」は連載第3回。「ポーランドでの体験／市川晋平」では 旅の助けに、とエスペラントを学び始めたが、予想以上にお世話になっている、とのこと。助けてくれるエスペランティストが多いからだろう。

*Mejls^tono: 2013 julio n-ro 238 仙台E会: B5X14 頁中E.文4頁。Raportode la "33a Verda Kunlog^ado de SES/SAITO Tume", 絵本「稲むらの火-浜口梧陵のはなし」寄贈活動報告／手塚孝、ILEUSO, KIO G^I ESTAS/MATUMOTO Takasi, UNUECO AU^ DIVERS-ECO/OOKOS^I K. など。

韓国併合条約公布日に寄せて

— 両国の平和・友好・交流の前進を願って —

1905年特派大使伊藤博文は、朝鮮（韓国）の外交権を奪い、漢城（現ソウル）に日本の統監府を置くとした第二次日韓協約の調印を武力で強制し、朝鮮支配（植民地化）のレールを敷きました。朝鮮人民の抵抗、義兵闘争が全土で激しく起こりましたが、伊藤は容赦なく弾圧しました。

しかし、その調印直後朝鮮政府は「第2次日韓協約は武力による強制締結だ」「反対だった主権者皇帝の承認・署名がない」などの理由で「条約は成立していない、従ってその後の条約も無効だ」と主張し、今日に至っています。

1910年8月22日、第2代統監（初代総督）の陸軍大将寺内正毅は日本軍を従えて漢城の朝鮮王国を包囲し、韓国併合条約（日本が朝鮮を支配する条約）の調印を強制、日本の「植民地」にしました。同月の29日はその条約の公布日です。

締結後も韓国の義兵等による抵抗がありましたが、日本軍・憲兵警察・偽韓国軍らがことごとく弾圧しました。伊藤博文を暗殺した義兵中隊長の安重根は韓国では今も英雄です。

大日本帝国の韓国支配以後35年余、土地・山林、企業・仕事などを奪われた朝鮮国民は、米等の食料は優先的に日本に送られて不足になり、極貧生活や飢餓状態を強いられ、中には餓死する者もいました。仕事を奪われた人で、北部の人の多くは中国の旧満州へ、南部の人は日本へ出稼ぎに行きました。北海道に来て、騙されてタコ部屋に入れられ、港湾などの軍事工事に強制労働させられた人もいました。その現場で酷使や虐待によって倒れ、故郷に帰ることができず、今もまだ土中に埋もれている人もいることでしょう。

昨今、安倍政権下で竹島領土問題が悪化しました。領土帰属については「話し合い」という平和外交で解決するのが原則です。又、「従軍慰安婦」（性奴隷）問題では、橋下発言で急速に悪化しました。さらには、侵略を肯定する靖国参拝を強行しました。憲法改訂では近隣諸国や欧米までも心配、警戒させています。選挙後は本丸の憲法9条改訂の条件を法律並みに下げようとする96条改訂問題や国民投票法の審議再開、米国オバマ政権の意向である集団的自衛権行使の検討を加速しようとしています。日本国憲法前文は、将来憲法を変えるとき三原則（平和主義・国民主権・基本的人権の尊重）は変えてはならないとしています。従って、自衛軍等を規定している自民党改憲案は違憲の改定案と言うことができます。99条にいたっては、大臣などすべての公務員に憲法尊重擁護義務を規定しています。これにも抵触するのではないのでしょうか。とりわけ、最高法規の憲法改定条件を自己（安倍・自民党）の都合で3分の2から過半数に下げる主張は「もつてのほか」といべきです。安倍政権は国民の平和と人権に全く危険な政権と言わざるを得ません。

この度の安倍政権下の選挙結果は投票率52.6%、自民党得票率は比例で約35%（1846万票）です。これは約1億人の有権者からみて「5分の1弱」になります。議席数では小選挙区制によって圧倒多数ですが、国民（有権者）の支持からみますと「四分の一政権」（公明党得票含めて得票数2603万票）で、与党もその弱点を十分承知しているはずで

札幌郷土を掘る会は、6月に『平和憲法の初心—戦争はもうゴリゴリ—』という冊子（無料）を発行しました。新聞で紹介されると、全道各地から「周囲に広めたい」と一人2冊、5冊、10冊という注文がありました。現憲法が変えられることにどれ程心配していることか、という気持ちが伝わってきます。

残念にも、日常にも懸念が見られます。領土問題等が起きてから韓国や中国から、又その逆の観光客が激減していることです。平和の発展には人々の友好・交流が大切ですから、残念な影響です。

さらに友好・交流で言いますと、特に隣国を訪問する日本人は日本が隣国に犯した過去の歴史的事実は胸にしっかりと押さえておくことが必要です。しかし、現状はどうでしょうか。例えば冒頭の1910年、8月、22日、29日の数字はどれだけの日本国民が知っているのでしょうか。マスコミが毎年8月22日に、ないしは29日に朝鮮支配について報道しないばかりか、札幌市が使用している中学校歴史教科書の中にも1910年以外はありません。「足を踏んだ方は忘れても踏まれた方は忘れない」という諺は古今東西の真理です。いつまでもこんなことでいいのでしょうか。

8・29の機会に寄せて、国民レベルの平和・友好・交流の前進のために、当「8・29アピール」が広く札幌市民、道民の目にふれることを願っています。

2013年8月1日

札幌郷土を掘る会

代表：小松豊

連絡先：事務局 T011-866-2013、F011-866-2014

代表 T・F011-785-2622

Protokolo de la 4-a Komitato Kunsido de HEL/kasjaro 2013
2013年度 第4回北海道エスぺラント連盟委員会 議事録

日時：2013年6月9日（日） 13:00～16:30

場所：札幌エルプラザ 2階

市民活動サポートセンター ミーティングルーム

出席者：横山、星田、阿部、小淵、後藤、山下、川合（記録）

[組織]

入会・退会者：なし

滞納者：9名。振込用紙を送付した。

[財政]

・HEL会計（財産）を万が一に備えて分散管理することとし、通帳の一部を阿部から川合へ渡した。

[広報]

・ホームページ：アクセス数69 390件（過去2ヶ月で+187）。初夏合宿の案内と、『青春の門 第七部 挑戦篇』（五木寛之）書評（樺山裕介氏）を掲載。

・メールマガジン：最近は休んでしまった。初夏合宿の予告を出したい（横山）。

[情報・宣伝]

・4月16日、苫小牧ケーブルテレビがTESを取材に来た。確認はしていないが、放映されたい。また、このとき同時に北海道新聞（胆振版）の取材も受けた（星田）。

・「しみさぼメルマガ」（札幌市市民活動サポートセンター発行のメールマガジン）の「活動団体紹介」欄のインタビューに川合が応じた。初夏合宿の案内も記事になった（6月7日配信、読者数500名強）。

[教育・研究]

・SES, TES：従来どおり。

・SESに新入会員2名（米国人の親子）。←HELに勧誘できないか。

[機関誌]

・6月9日、「Heroldo de HEL」第147号、90部印刷・発行。

・次号は初夏合宿の報告と道新胆振版の記事のコピー（前記）を載せたい。

[年間計画]

<初夏合宿>

・6月29日（土）～30日（日）、柴田内科循環器科研修センター（札幌市西区）にて。

・29日の講習開始よりも早く到着した一般参加者を対象に、エスぺラントや合宿を知った経路などのアンケートをとったり、クイズなどをして時間を調整したい（阿部）。

・「初級」クラスを1つにするか2つに分けるかは、参加申込みの状況のみで決める。

・一般への宣伝は、前記「しみさぼメルマガ」のほか、北海道新聞（催事案内）、北海道新聞ホームページ（イベントカレンダー）に出した。また、エルプラまつりや昨年の日本大会（札幌）の入門講座に来てくれた人計11名に手紙を送った（川合）。

<北海道大会>

・10月19日（土）～20日（日）、かでの2.7にて。19日は午後から開始し、連盟総会とバンケード。20日に公開公演・講演を予定する。

・外部講演者を堀泰雄氏（群馬県前橋市）と決定（川合依頼、先方快諾）。
エスペラントで集めた世界の楽器の演奏と、東日本大震災を世界に伝える
活動や海外のエスペランチストの反応などのお話。大会記念品は堀氏の著書
『世界の旅人堀さんのエスペラント気ままエッセー3』（仮題：10月までに
発行予定）とする。

・大会議案書は8月（委員会時）に原案提出（決算を除く：8月末に会計を
締め、決算は9月）、10月委員会時に印刷する。

[社会活動]

・「札幌郷土を掘る会」の協賛団体になった（詳細は「Heroldo de HEL」
147号）。

[次回委員会]

2013年8月11日（日）。

議題：北海道大会詳細、北海道大会議案書について。

[編集後記/Redaktanto parolas ...]

*この号には合宿関係その他の投稿があって内容はかなり変化にとんだものになり
ました。Koran dankon, kontribuintoj!

*問題は編集作業。20年使い慣れたPanasonic のワープロ、時々不具合のたびに
「だましだまし」使っていましたが今度は「起動不能？」になり打ち込んだ原稿
も消滅か、と思ったが何とか回復。しかしこのあたりが限界でしょう。

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円、 青年会員（26歳未満） 1500円、

購読会員 2000円、 家族会員、失業者など割引 1000円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

*Redaktas la Organo Fako de HEL

c`e HOS`IDA Acus`i

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

053-0844 JAPANIO

TEL-FAKS:0144-74-2539

Retadreso:hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

*Sekretario: KAWAI Yuka

N-ro 45, Simin-Katudô-Sapôto-Sentâ

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3

Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

TEL-FAKS: 0126-62-4636

Retadreso: nordano@sea.plala.or.jp

*TTT-ejo: <http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/index/index-j.htm>

*Pos`tg`irkonto (郵便振替): 02700-6-17075

北海道エスペラント連盟

*編集: 連盟機関誌部

〒053-0844 苫小牧市

宮の森町2丁目18-18

星田 淳 方

*事務局: 川合由香

〒060-0808 札幌市北区

北8条西3丁目札幌エルプラザ

市民活動サポートセンター リカーズNo.143